

令和2年 湖西市議会3月定例会

市長施政方針

令和2年2月19日

(はじめに)

本日から、令和2年3月定例会が開催されるにあたり、『新たな年度に向けた市政にあたっての基本的な考え方』と『主要な施策の概要』を申し上げ、市民の皆様をはじめ、議員の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

(1 市政にあたっての基本姿勢)

平成28年12月に市長に就任してから、3年がたちました。また、今年度は改元により平成から令和の時代がスタートするという、特別な1年でもありました。

就任以来、「全力投球」を自身の信条として、10年後、20年後を見据えた、住み続けたいまちづくりのため、市政に取り組んでまいりました。

今後も、初心を忘れることなく、「職住近接」により、人口減少や少子高齢化社会の中でも、持続可能な発展による、活気あるまちづくりのため、引き続き全力投球で邁進していきたいと思っております。

(2 令和元年度の事業実績)

そこでまずは、令和元年度の事業を振り返ってみたいと思っております。

令和元年度は、「職住近接」をキーワードに、人口減少対策、昼夜間人口の差の解消及び定住促進、湖西市の魅力発信による知名度の向上、関係人口の拡大等に取り組んでまいりました。

令和元年10月からは、「職住近接」による、ゆとりある豊かなライフスタイルを提案し、若い世代の本市への定住を促進するため、『住もっか「こさい」定住促進奨励金』をスタートさせていただきました。平成30年の10月からはじめた『新婚さん「こさい」へおいでん新生活応援金』とともに湖西へ住んでいただくきっかけになっているものと考えています。『住もっか「こさい」定住促進奨励金』は昨年10月以降にお家の契約や、居住を開始してからの申請となることから、現時点では2件の実績で、加えて約100件のお問い合わせなどをいただいております。今年以降に実績が積みあがっていくものと期待しております。『新婚さん「こさい」へおいでん新生活応援金』の方は平成30年10月から令和2年1月末までの約1年半で、ほぼ見込み通りの87件の実績となりました。

また、平成31年1月からはじめたラインを活用した「こさい」の魅力を発信するSNS湖西公式アカウントは、市外のふるさと納税者や転出者などに観光やイベント、企業・就職活動などの各種情報を発信することにより、湖西市に対する親近感を高めていただき、

関係・交流人口の増加による稼ぐ力の強化、ひいては定住の促進へ繋げていくものであり、1月末日現在、4,800名を超える登録をいただいております。

次に、市民の皆様の命を守る、「安心・安全な生活のための防災」につきましては、津波避難施設空白域である高師山地区たかしやまに設置予定の津波避難タワーの調査・設計が完了し、令和2年度に工事着手する準備が整いました。また上田町地区の命山やマイタイムライン、避難所の運営マニュアルなど、ハード・ソフト両面での整備を継続しています。消防活動につきましては、入出地区第7分団と南分署の消防ポンプ自動車を更新いたしました。また農業分野においては、近年頻発する豪雨等の災害対策のため、防災重点ため池の整備や、ハザードマップの作成を行いました。

「幸福度日本一のまちを目指しての『子育て・教育の充実』」につきましては、新居幼稚園において、令和2年4月からのこども園化に向け改修工事を完了しました。岡崎幼稚園についても令和3年4月からのこども園化に向け、新しい保育園部の建物が完成しました。

さらに、新居小学校内において、放課後児童クラブを令和2年4月から新たに開設するための準備が完了しました。

また、産後うつ予防や新生児への虐待予防等を図るため、産婦健康診査および産後ケア事業を実施しました。加えて、妊娠期から子育て期に亘る、切れ目のない支援の充実を図るため、「子育て世代包括支援センター」の機能を健康福祉センター（おぼと）内に新たに設けました。

スポーツにおいては、「東京2020オリンピック・パラリンピック」に向け、スペイン卓球代表の選手団が8月にアメニティプラザで事前のトレーニングキャンプを実施しました。子どもたちへの卓球教室や、デンソーほかとの国際親善試合の実施など、市民の皆様のオリンピックに向けての機運醸成に大きく貢献いただいたものと思います。

「産業の振興」につきましては、浜名湖西岸土地区画整理事業への支援として、高圧鉄塔の移設補償や河川の付替え工事を実施しました。また、都市計画道路 大倉戸茶屋松線の整備事業において、必要な用地の取得や建物の移転補償を行うとともに、用地取得が完了した区間においては建設工事に着手いたしました。また先日、ICTを活用した工事現場の親子見学会が開催され、3Dブルドーザの体験試乗やドローン、測量機器の追尾機能を使ってのドラゴンボール探しなど、最先端の技術に触れながら、湖西市のまちづくり工事

現場に親しみを深められたと、好評でした。

畜産業の振興においては、静岡県内最大、2万7千頭の飼育頭数を誇る湖西市における養豚業のため、豚熱(豚コレラ)の防疫対策として11月からワクチン接種を実施しました。引き続き、消毒の徹底、野生イノシシの侵入防止策などの防疫対策につき、国や県と連携しながら実施してまいります。加えて、臭気対策事業としましては、畜舎の密閉化や、市民臭気モニターの導入等を実施しました。

商工業においては、市内企業の人材確保、事業承継、販路拡大など共通の課題で、商工会、職業訓練センター等と協力し、各種就職セミナーや業界研究フェア、シニア向け合同企業説明会など雇用対策も含めた取組みを進めました。

農業分野においては、基幹水利施設や基幹農道の改修を行ったほか、農地の活用や保全のための土地改良施設の整備や維持管理への支援、荒廃農地の再生・活用、多面的機能支払交付金事業を行いました。

また資源循環型社会を構築するため、環境センターでのごみ焼却再開に向けて、リサイクルプラザの長寿命化計画の策定と生活環境影響調査等を実施しました。あわせて、スマートフォン用のごみ分別アプリを配信し、転入したばかりの方や若い世代、また多言語で配信することにより、外国籍の方々にも、わかりやすく情報を発信しています。

「市の知名度アップのための『観光・シティプロモーション』」につきましては、年間130万人以上が利用するJR新所原駅の南北自由通路に、デジタルサイネージ(電子看板)を設置し、11月から本市の観光やイベント、定住促進などの各種情報を発信しております。

観光事業としては、広域DMOの「浜松・浜名湖ツーリズムビューロー」を中心に、浜名湖ならではの干潟やアマモ場、湖西市ならではの関所や宿場での体験などのdestinationキャンペーンに参画したほか、サイクルツーリング、3月20日に開幕する「浜名湖花フェスタ2020」など、浜松市とも連携した浜名湖観光圏整備事業を進めました。湖西市独自のものとしては、牡蠣のプリ丸や魚のつかみ取りで、報道など露出度が上がっている「海湖館」をはじめとする観光施設の運営のほか、市の魅力を市内外の方々に広く知っていただけるよう、地元の団体や個人、有志による、6回目の「浜名湖おんぱく」を開催しました。

また、平成30年度から始まった「ふるさと大使」の皆さんによる湖西市のPRも、8月のおいでん祭において、新たに1名の方に委嘱させていただきました。合計8名と1組となり、ご自身のライブ活動や出演する番組、SNSなどで湖西市のおすすめスポットやお店など、魅力の発信にご協力いただいています。

さらに、観光資源の活用による観光客の誘致促進のため、新居関所の構内に江戸時代後期の歴史的景観をよみがえらせるため、「女改之長屋」の復元工事を実施しました。また、来館者が楽しく学べるよう、タブレットによるVR等を取り入れたアプリを作成し、関所風景の再現の様子が、テレビなど報道にも取り上げていただきました。

また、高齢化が進む中、日本一思いやりのあるまちを目指す『福祉分野』におきましては、

地域包括ケアシステムの構築に向け、各地域において第2層協議体会議を開催し、地域の関係者と一緒になって、居場所づくりや買い物支援等の取組を進めました。

地域医療につきましては、湖西病院において、経営戦略監の設置に加え、10月から新たな外科のドクターを副院長として増員することができ、医療機能の充実や経営改善を進めていることに加え、まだ構想段階ではありますが、市内での出産が可能となるよう、新たな取組を進めています。

そんな中、9月に厚生労働省から地域医療構想の発表がありました。そこには現在、湖西病院が新たに取り組み始めた、地域包括ケア病床や診療科目の見直し、周辺の医療機関との連携強化など、直近の取組みが全く反映されていません。湖西病院の統合・再編は現時点で全く予定しておりませんし、何よりも、市民の皆様が安心して医療を受けられることを第一に、開業医から、より高度な急性期病院まで、他の医療機関とも連携を深め、病院事業管理者や経営戦略監といった経営のプロ、また病院職員の皆様とも意見交換を重ねながら、回復期医療など、地域のニーズに合った形態に転換しつつ、同時に経営の改善を図っていく所存です。

さらに、子どもからお年寄りまで、すべての世代に重要となる公共交通の利便性向上に関し、デマンド型の乗合タクシーを、従来からの白須賀地区に加え、11月から北部地区でも実証実験を開始しました。今後、本格運行により市内全域に拡大すべく、乗合率向上のインセンティブなど、改善を図っていきたいと考えています。また、1月23日に連携協定を結ばせていただいた「MONET Technologies 株式会社」とは「湖西市企業シャトル BaaS 研究会」を発足し、これまでに2回、研究会を開催いたしました。企業のシャトルバスを地域住民の皆様にご利用いただくという、全国初の次世代型モビリティサービスの社会実装、地域に優しい公共交通に向けた取組を進めてまいります。

また、昔の市民会館に代わる新たな市民交流複合施設について、ロードマップに基づき、文化協会はじめ各種の関係団体や市民の皆様からご意見を聴取させていただきました。これらの意見を参考に、具体的な機能や設計に向けた準備を進めてまいります。また、公共

施設の管理運営につき、「包括施設管理」を導入し、業務水準向上や業務の効率化を進めているところです。

また、今後の湖西市の政策の道しるべとなる、第6次総合計画や立地適正化計画の策定についても、年度内に有識者による各種の会議等をスタートさせていただき、令和3年度からの実施に向け、着実に準備を進めています。

以上、令和元年度を振り返らせていただきましたが、全国的に人口減少、少子・高齢化が進む中、令和2年度も、引き続き「職住近接」をキーワードとして、市民の皆様が安心して安全に生活することができ、湖西市に住み続けたい、お子さんやお孫さんの代まで、住んで働きたいと思っていただける持続可能な湖西市を目指し、職員の皆さんとともに一丸となって取り組んでまいります。

(3 令和2年度 予算案について)

(1) 市の財政状況

続きまして、令和2年度の予算編成にあたり、市の財政状況は現在、そして将来にわたり、非常に厳しい状況となっています。普通交付税は令和2年度から、合併算定替えの激変緩和期間の終了により、交付されなくなる見込みです。このことにより、臨時財政対策債との合算額で、5年前の平成26年度と比較すると、15億円以上もの額が自然減収となります。加えて、昨年の消費税率の引き上げにも伴い、法人市民税の法人税割が従前に比べ約半分の6.0%に引き下げられ、制度改正前の平成26年度当時と比較しますと、約13億円の減収と試算されるなど、合計28億円、一般会計の約13%にも匹敵する、極めて厳しい状況にあります。

そうした中、先月末に、財務省東海財務局では県内の経済情勢を「景気の回復の動きに一服感がみられる」とし、「緩やかに回復している」から下方修正したとの発表がありました。また、新型コロナウイルスに伴うサプライチェーンなどの経済活動の減速の影響が日々広がりをみせ始めており、市の経済は、製造業・自動車産業をはじめとする企業活動に支えられていることもあり、世界経済の影響を受けやすい財政構造となっていますことから、今後の国内外の経済動向を注視し、対応してまいります。

(2) 令和2年度予算案の概要

こうした状況を踏まえ、令和2年度の予算編成においては、厳しい財政状況の中でも、時代の変化とともに生じる多様な政策ニーズに応えながら、将来にわたって持続可能な発

展を続けるため、すべての事業において不断の見直しを実施し、限りある財源が効率的かつ効果的に活用できるよう努めました。

特に、人口減少対策や、活気あるまちづくりのため、引き続き、「職住近接」をキーワードに、

- ① 子育て・教育の支援、充実
- ② 産業の振興
- ③ 観光・シティプロモーションの推進

を重点事業として、予算を編成いたしました。

令和2年度当初予算額は、

一般会計 217億1千万円、

特別会計や企業会計を合わせた、

全会計の合計は 402億6千万円

となりました。

歳入においては、財政調整基金は前年比で▲1億2千万円の繰入額を減額し、令和元年度末で約32億円となり、万が一、リーマンショック並みの経済危機が発生したとしても、交付税の不交付団体が持続可能と言われる、標準財政規模（湖西市の場合は約140億円）比で約25%の積立まであともう一息、というところまでやってきました。市の借金である市債は、浜名湖西岸土地区画整理事業など、大型事業により13億3千万円の発行となりましたが、これも昨年、令和元年度の補正後と比べ、▲3千万円の減額としております。加えて市債残高は、令和2年度末の見込みで171億4千万円と、繰越を除いたネットの残高では、対前年度比で▲2億2千万円の減少と、借金残高を減少させております。

(3) 予算案「分野別の重点施策」

次に、歳出においては、新たな事業とこれまでの取り組みをさらに発展・深化させながら、将来のために真に必要な施策を着実に推進してまいります。

それでは、先ほどの3つの重点事業、加えて市民生活の根幹となる「安心・安全」の4つの分野ごとに、ご説明申し上げます。

まず、1つ目の、「安心・安全」について、

津波から命を守るため、引き続き高師山地区に津波避難タワー、命山などの整備を進めるほか、毎年起こっている台風などの風水害に備え、避難所・避難場所の分かりやすい周知・啓発や、避難所運営マニュアル、要配慮者への配慮など、ハード・ソフト両面からの充実を図ります。

また、増え続けている外国籍市民のため、現在、日本語とポルトガル語で配信している「防災ほっとメール」に、スペイン語、やさしい日本語を追加します。加えて、外国籍の方々への生活支援の一環として、ゴミ出し、災害時の対応といった生活ルール等のガイド・啓発動画を作成します。

さらに、犯罪被害者等に対する精神的・経済的支援を行うため、総合相談窓口を設置するとともに、見舞金の支給を創設します。

消防においては、通信指令システムの更新や、運転免許制度の変更に伴い、3.5トン以上の消防ポンプ車を運転するためには、準中型免許が必要となるため、消防団員が準中型免許を取得し易いよう、取得経費の一部助成制度を創設します。

交通事故の防止のためには、通学路点検で危険性が高いと判断された箇所や交通量の多い箇所について、ガードレール設置など歩行者の安全確保対策を実施するとともに、鷺津踏切の改良や鷺津駅谷上線における歩道整備のための事業を行います。

福祉分野においては、精神障害者の入院費助成において、現在入院2か月目から対象としているものを、入院1日目から対象とします。また、介護人材の確保・充実を図るため、介護職員初任者研修における研修費の一部助成を創設します。

湖西病院においては、地域包括ケア病床のさらなる充実や、病棟化による高齢化の時代に即した回復期医療の充実、白内障の手術の実施拡大、地域連携外来や緩和ケア外来の設置などにより、地域医療の拠点として、引き続き市民の皆様が安心して医療を受けられるよう、医療機能の充実と経営改善を進めてまいります。

2つ目の、「子育て・教育の充実、支援」については、

定住促進と市内企業の雇用確保のため、市内の企業と連携した『わ〜くわく「こさい」で新生活』奨学金返還支援制度を創設し実施するほか、新居幼稚園のこども園化が4月からスタートするのにつき、岡崎幼稚園の園舎改修を行い、こども園化へ向けた準備を引き続き進めます。また、現在進めている民間事業者による園の新設や施設整備を、積極的に支援します。

また、学校教育環境の改善のため、小・中学校の屋上防水工事や小学校のトイレ洋式化を順次行います。併せて、小中学校の老朽化した給食施設の改善や地産地消の推進、よりおいしく安全な給食に向け、給食センター化に向けて検討を進めます。

養育支援については、従前の訪問事業に加え、支援が特に必要な家庭に対し、集中的に保健師・助産師・保育士等がお宅を訪問し、養育に関する手厚い指導、助言等を行い、より適切な養育の実施を確保します。

3つ目の、「産業の振興」については、

先ほども申し上げましたとおり、「MONET Technologies 株式会社」との連携により『湖西市 BaaS 事業』として、市内企業が運行するシャトルバスに市民の皆さんも乗車が可能となる仕組みの構築など、仮に運転免許を返納しても安心して病院や買い物に行けるような、地域に優しい公共交通、次世代型モビリティサービスの実施へ向けた実証実験等を行います。

また、湖西市における生産年齢人口の男女比のアンバランス（約2,200人、8.5%）の解消に繋がる施策を、企画・立案するための調査を大学等と連携して実施し、「職住近接」を促進するとともに、女性活躍の推進にも注力し、労働意欲を持つ女性に対する再就職支援や、性別等によらずに能力を活かせる職場づくりに取組む中小企業に、専門家派遣等を強化して実施します。

畜産臭気対策への取組みとしては、令和元年11月から試行している市民臭気モニターの成果を参考に臭気測定を実施し、臭気指数の規制基準の見直しに繋げるほか、引き続き畜舎の密閉化、消臭剤散布等の臭気対策を実施する畜産事業者に対して、国や県と連携して支援を行います。

さらに、雇用の創出や次世代産業の核ともなる「浜名湖西岸土地区画整理事業」を引き続き着実に支援するとともに、そのアクセス道路ともなる都市計画道路 大倉戸茶屋松線の整備を進めてまいります。

環境センターにおいては、資源循環型社会を構築するため、燃えるごみの焼却再開に向けて、PFI手法による施設の再稼働とリサイクルプラザの長寿命化工事及び長期包括管理の実施に向け、事業者を決定します。

また、中長期的に土地の利活用を活性化し、宅地や商業施設など持続可能で魅力的なまちづくりのため、利便性の高いJRの駅を中心として、新・市民交流複合施設をはじめ、幅広い世代の方々が集まることのできる「中心市街地の活性化」を目指した、「湖西市立地適正化計画」を策定します。

4つ目の、「観光・シティプロモーション」について、

何と言っても今年の夏には、「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開催されます。その聖火リレーの静岡県のスタート地点として、6月24日に新居関所跡前で出発イベントを行います。なお、7月には、スペイン卓球代表選手団の事前合宿を行う予定です。

また、7月に初めて日本国内で開催される「浜名湖キューバ・ヘミングウェイカップ2020」

において、関係機関と連携して、夏の浜名湖のにぎわいづくりを盛り上げます。

さらに、新居弁天地区が海湖館周辺などにおいて、通年で楽しめる集客地域となり、また白須賀地区の道の駅や遠州灘等、既存施設の観光振興と誘客のさらなる強化に向けた「湖西市観光計画」を策定します。

加えて、昨夏に実施した新所原駅南口における「広バル」を継続するとともに、同様の取組みを他の地域にも広げ、市全体のにぎわい創出・商業振興を実施するほか、三河地方等への情報発信を進めます。

その他、「『企業版』みらいのこさい調査事業」を創設し、民間事業者の知見やノウハウを活用した市民サービスの向上や稼ぐ力、生産性の向上を図ります。また、働き方改革の一環として、今年度に試行した検証の結果、効果が認められたRPA導入業務を拡大し、人的ミスのない業務の向上や、効率化を図ります。

(4 むすび)

これまで、令和2年度の予算案の主な取組についてご説明申し上げました。

先般亡くなられた、野村克也さんの格言の中には、

「『働く』とは、ハタ（傍）をラク（楽）にすること」

「経営者に一番大切な条件は『熱意』である」

「現状維持は後退である」

「判断は頭で、決断はハートで」

といった言葉があります。

また、昨年10月の豊田佐吉翁顕彰祭において、トヨタ自動車の豊田章男社長は、「何が正解かわからない時代。失敗をおそれず、まずやってみる。たくさん挑戦し、工夫を重ねることが、次の時代を開く」と述べられました。これらは、豊田佐吉翁の「障子を開けてみよ 外は広いぞ」の言葉にある、挑戦しなければ何もはじまらないというチャレンジ精神が、共通していると考えています。

市政においても、チャレンジを続け、10年後、20年後といった、未来ある子どもたちのため、湖西市の将来のため、さらに「全力投球」で働いてまいりますので、引き続き、議会をはじめ、皆様方のご支援ご協力を、どうかよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

(以 上)